



ときがわ町長 渡邊 一美氏

町長のメッセージ

平成18年2月に旧玉川村と旧都幾川村が合併し、来年度で合併20周年を迎えます。町名の由来である都幾川が西から東に流れ、春は新緑と花々、夏にはキャンプ、秋は紅葉、冬は天体観測や天然のスケートリンクと四季折々の楽しみ方が満喫できる魅力あふれる町です。

学校給食に地元農産物を使用し子どもたちの食に対する関心の向上、小学校体育館の照明LED化や少人数学級の実施による学習環境の向上、自然災害への備えや交通環境整備、子育て支援を推進し、町民一人ひとりが「住んで良かった」と思えるまちづくりを進めていきます。

ぜひ一度ときがわ町にお越しください。

はじめに

ときがわ町は東京都心から北西に約60km、埼玉県
の中央部に位置し、東は嵐山町、南は鳩山町、越生
町、飯能市、西は横瀬町、秩父市、北は東秩父村、小
川町に接している。西部は大半を森林で囲まれてお
り、東に向かって山地、丘陵地、台地に至る里山地域
となっている。

JR八高線が町の東部を走り、明覚駅が玄関口と
なっている。地場産の木材を使ったログハウスの駅舎
(関東の駅百選認定駅) が人々を温かく迎えてくれる。
道路では、県道172号線が東西に、同30号線が南北
に走っている。

町内には清流として有名な都幾川(表紙写真)が
西から東に流れ、川には様々な水生生物や鳥類が生
息している。古くから森や木々を大切に守り育ててお
り、古樹、巨木を多く見ることができる。空気が澄んで
おり、星空観測会も定期的に行われている。自然の
心地よさを求めて、多くのハイキング客が訪れ、溪谷
沿いでのキャンプも楽しめる。

木のまちときがわ

ときがわ町は「木のまち」といわれ、古くから森林
と人とのつながりが強く、林業、建具を代表とする木
工業などの産業とともに発展してきた。この起源は、
約1300年の歴史を誇る古刹「慈光寺」にあるとい
われている。慈光寺は奈良時代に開かれ、鎌倉時代
に源頼朝から篤い信仰を受けて大寺院として栄え

た。国宝である「法華経一品経」をはじめ国指定
の重要文化財を数多く所蔵する、埼玉県を代表す
る名刹である。寺の建立のために各地から呼び寄せ
られた木工職人たちがこの地に定住し、優れた技術
と地元の良質な森林資源により、当地に建具産業
が栄えた。

こうした歴史、伝統は今に受け継がれ、町の公共
施設は町内の森林から伐り出されたスギやヒノキな
どを使用して整備している。老朽化の進行した学校
施設は、内装木質化によりリニューアルを行っている。
内装木質化とは、校舎などの骨組みは鉄筋コンク
リートを生かし、内装を木の床と壁で覆う工法。木を
用いることで、教室内の湿度を一定に保ち、快適性
を向上させるとともに、ぬくもりやいやしの効果をも
たらす。学校の雰囲気が落ち着くなど教育効果は大
きい。地域産材を利用することにより、伐採と植林の
好循環が生まれ、山林の保護や活性化につながっ
ている。



木のぬくもりのある校舎内

